ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/fukurou/

グループホーム　神戸平野ふくろうの樹　６月１日より始動

▶郡勝平様（写真左）へ感謝状贈呈

５月23日（日）に神戸平野ふくろうの樹の開所式が開催されました。オーナーの郡勝平様ご家族をはじめ、地域の方や聴覚障害者関係団体の代表など12名の来賓にご出席いただきました。

入居者の荒木津紀子さんは、「仲間と一緒に生活できるのは夢のようです。６月１日から、ここでのびのびと手話でおしゃべりできる生活にワクワクしています。」と希望を語られました。

施設がある石井町六丁目の北側に隣接している都由乃会自治会長の岸良一郎さんは、「今は、コロナで活動のほとんどが中止になっていますが、本来はいろいろな活動があります。近くには幼稚園や福祉施設もあります。一緒に取り組めたらいいですね。」との言葉をいただき、式の終了後には、自治会の会報を持参していただきました。

神戸平野ふくろうの樹が、聴覚障害者のためだけのものではなく、地域の社会資源の一つとして、貢献できる施設を目指して、暮らしを支えていきたいです。

（管理者　竹原　哲章）

大阪府立生野聴覚支援学校の児童であった故井出安優香さん（当時11歳）が同学校の校門前で工事中の重機にはねられ命を絶たれた事件で、両親が損害賠償を求め裁判中です。ろう児であるから逸失利益は聞こえる女性の４割とすべきと加害側が主張しています。優生保護法の障害観が亡霊でなく武器として死者の尊厳まで踏みにじっています。公正裁判を求める書名運動に当法人も連帯しています。

来年こそは　運動会で玉入れを

▲狙いを定めて真剣な表情の平野さん

５月５日（水）子供の日に、５月に誕生日を迎える入居者を祝って誕生会を行いました。誕生日に当たる入居者の人生、趣味や好きなことなどを紹介し、狭間施設長から誕生日プレゼントをお渡します。

その後にレクリエーション。今回は毎年参加させて頂いている中川原小学校の運動会が延期になったため、少しでも運動会の雰囲気を味わっていただければと玉入れを行いました。

入居者のなかでも盲ろう者の八木さんは、玉を渡して投入する場所を教えると、見事に全球入れられ、そのことを伝えるとうれしそうに声を出して笑っておられました。

皆さん一生懸命に玉を投げ入れる姿に、毎年運動会で子供たちと触れ合い笑顔をみせる入居者を思い出し、少しでも早くコロナが収束し、地域の方々にお会いできる日が来ることを切に思いました。

（生活支援係　魚﨑　恭行）

ふくろう物語 吉村 治郎様

吉村さんは昭和12年8月30日生まれ83歳。認知症の進行により、外出先から戻られなくなるなど、在宅での生活が難しくなり淡路ふくろうの郷ショートステイを経て、令和2年7月2日に入居されました。

生まれも育ちも大阪市東淀川区。5人姉弟の4番目です。大阪大空襲（昭和20年6月15日）で家が焼失し、両親と離れてまだ幼かった吉村さんと弟様の二人はお寺に預けられます。その後、高津学園（児童養護施設）に入所され、そこから姉の勧めで大阪市立聾学校のことを知り通学されていました。

▶ピザ作りにご満悦の吉村さん

中学1年生の時にお父様が脳出血で亡くなり、中途退学せざるを得なくなりました。姉が働いていた宮川工具研究所（現在レッキス工業に名称変更）を紹介され、就職して定年まで働いたそうです。この会社は昭和13年からろうあ者の採用を始めており、すでにろうあ者がたくさんいました。仕事内容はガスの配管パイプの部品の研磨などをされていました。在職中にろうあ者に対する差別事件が起こり、大阪のろう者の生活と権利を守る会を中心に会社に対して労働組合員として関わられた。

▲家族・知人が来訪され喜ぶ吉村さん

家庭を築く

26歳の時に京都に住まわれていた奥様と出会います。きっかけはろうあ協会の野球部の選手をしており、6か月間交際されたあと、結婚されました。

娘様が生まれると、奥様が暮らしていた京都にある家でしばらく生活されていました。職場である大阪と京都間を通勤していました。2ヶ月後に大阪の文化住宅に転居され親子3人、川の字で寝ていました。

ある日、夜泣きの声が聞こえない両親に代わって、隣の家主が娘をあやしていました。目が覚めた時に施錠していたのに妻は大変驚き、家主がしびれを切らしてのことだったとわかりました。それ以降、迷惑を掛けたくないという気持ちから2時間おきに交代して娘の面倒を見ていたそうです。早朝出勤だったので昼休みに仮眠を取っていたようです。

娘様の結婚後は、友人からゲートボールを勧められ20年間通われていました。仲間とのプレーを楽しみにされ、早朝から待ちきれずに、いつも準備をされとても感謝されていました。

また、大阪聴力障害者協会の体育部長や理事などを歴任され、昭和46年頃ろうあ者相撲大会では準優勝されています。

ふくろうの郷での暮らしはろうあ者が多い星海ユニットに入居されており、他の入居者と手話で話されたり、野球中継や相撲番組を観ているととても饒舌に話されます。また、行事にお誘いすると喜んで参加されています。

3月12日に奥様と娘家族やご友人が来訪され久しぶりに対面され、とても喜んでおられました。別れ際に、曾孫を抱きたい、あやしたいと話されましたが、今はガラス越しです。

次回来訪された際は、ガラスなしで会える状況になっていることを願っています。これからも吉村さんと一緒に笑顔で和やかに過ごせるよう支援していきたいと思います。（星海ユニット

生活援助係　石黒裕規）

生きた時代・社会

昭和12年	日中戦争
昭和20年	大阪大空襲・原爆投下敗戦
昭和21年	憲法公布
昭和40年	宮川工具研究所労働争議
昭和56年	国際障害者年
平成18年	障害者権利条約採択
平成28年	障害者差別解消法施行

みんな一緒に 手で話そう♪

▶森昌子「お母さん」を一緒に手話表現

「手話を楽しむ」

手話に慣れ親しみ、楽しんでもらう時間を共有するために毎月開催しています。

歌や物語などを題材に担当者が事前に内容を相談していても当日に即興で参加者と一緒に表現方法を「あーでもないこーでもない」と会話のキャッチボールを繰り返して、作り上げていきます。

５月は「母の日」にちなんだ思い出話の中から出てきた単語「プレゼント」などの手話表現を覚えたり、歌詞に合わせて手話表現を一緒に考えています。

いつも準備体操してから徐々に場の雰囲気を盛り上げながら、一体化できたときには、担当していて、とてもうれしくやりがいを感じています。

まだまだ、交流の機会が制限されている今、地域交流会の手話講座が再開され、交流できる日を待ち望んでいます。

（生活援助係　東原　裕己）

～お知らせ～

◎新型コロナワクチン接種について、入居者は２グループに分けて１回目:６月８日・９日に接種。２回目：６月 29 日・30 日に予定しております。(65 歳以上)

◎職員の PCR 検査を３月・５月末に実施し、全員陰性でした。(県の公費で実施)

6月・7月　ふくろうの暮らし

6/15(火)　おのころパン販売
6/16(水)　ふくろう喫茶
6/18(金)　ふくろう大学料理講座
6/20(日)　初夏まつり
6/23(水)　備蓄食訓練・手話講座
　　　　　歯科衛生士訪問
6/25(金)　健康診断
6/29(火)　入居者ｺﾛﾅﾜｸﾁﾝ接種
6/30(水)　　　〃
7/ 2(金)　おのころパン販売
7/ 5(月)　ふくろう理髪店
7/ 6(火)　ふくろう大学演劇講座
7/ 7(水)　誕生会
7/11(日)　地域交流会そうめん流し

～研修「身体拘束・虐待防止について」～

講師：ふくろうの郷副施設長　加野明宏氏

(4 月 27 日開催)

私は虐待とは身体的・心理的・経済的・放棄放任などの種類があることは知っていましたが、今回の研修でより深く学ぶことができました。虐待を発見した場合は速やかに市町村に報告が義務付けられていて、少しの変化でも早く気付くことで、対応できる力の大切さを知ることができました。虐待の発生理由の一つに職員のストレスが多いと聞き、日頃からストレスを改善し、コントロールする必要があると思いました。

普段、「自分の感情を自分でコントロールするように」と意識しています。この言葉は以前所属していた高校の部活の監督から教えていただきました。それは簡単に言うと「気分があがらない日でもコントロールすることで気分はあがる」ということです。

人間は誰しもイライラしたり、怒ったり態度に出る人もいます。衝動に駆られたときは「６秒ルール」が有効です。沈黙の間に冷静さを取り戻し、怒りの原因を知ることが重要です。自分の感情が正しい場合でも「怒らない」という行動を選択することができるようになりたいです。

必要な時にだけ怒り、無駄な怒りを排除することができればコントロールしているということです。毎日、自分の感情の世界に入るのではなく、周りを見る力もすごく大切だと気づかされました。コントロールできれば毎日が楽しく、虐待も減ると思いました。

生活援助係　畠　ひづる(2021 年 4 月入職)

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

5月の移動相談
南あわじ市福良地区訪問

聞こえのことについて気軽に足を運んでもらえ相談していただけるように旧町単位に移動相談を再開しました。新聞や広報誌などで、広く利用を呼びかけています。移動相談に合わせ、なかなか足を運べない方への家庭訪問も行っています。

今年度2回目となる5月12日、福良地区を訪問しました。

福良地区公民館にて
　福良にお住まいのＥさんが来館。コロナ禍で医者がマスクを着用しており、口形が読み取れず、困っているとの相談。要約筆記の派遣やスマホの UD トーク（文字変換アプリ）の利用について説明した。また遠隔通訳の利用方法についてもお話しました。

あなたの地域、自宅を訪問します
困りごと、ありませんか～

　Ｍさん宅訪問。
お姉さんから元気に暮らされていることをお聞きしました。

谷口緑さんの自宅訪問
　谷口さんは独り暮らし。車もなく、また持病をお持ちのため、出歩くことも控えておられ、訪問を喜ばれました。
　コロナワクチン接種の予約方法について説明しました。接種については持病があるので、かかりつけの医者に相談するとのことでした。
　また病院受診予定であるが、急な休診があると困るので、確認してほしいとの依頼があり、翌日確認して連絡するとお伝えしました。

今後の移動相談日程

7月14日（水）三原地区
9月 8日（水）東浦地区
10月13日（水）西淡地区
11月10日（水）一宮地区
12月 8日（水）緑地区
2022年
1月12日（水）津名地区
2月 9日（水）洲本地区

手話の学びを楽しみに
島内4か所で
「手話奉仕員養成講座開講式」

昨年度中止した手話奉仕員養成講座ですが、コロナ禍が続く今年度は対策を講じ開講することとしました。申込者が集まるかどうか心配な中、各会場多数の申し込みがあり4か所で41名になりました。会場によっては昨年度申し込んだけれど、中止になり、今年度の開催を心待ちにしていた方も多く、やっと学べる、と期待感も大きなものでした。

4月21日（水）洲本会場の昼と夜の部、22日（木）南あわじ会場、淡路会場でそれぞれ開講式が開かれ、各会場では市福祉課長より「たくさんの人が申し込んでくれて嬉しい。手話ができる人が増えることを期待しています。」と挨拶をいただきました。

開講式の後、早速講座が始まり、参加者は「楽しい。思っていたより難しいが最後まで頑張りたい」と感想を話されていました。

▲南あわじ市会場での開講式

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
〒656-0002
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

おやつレク（ケーキ作り）

毎月おのころの家では利用者さんの誕生日を手作りのおやつでお祝いしています。誕生月の利用者さんにリクエストをうかがい、今月は若いメンバーがショートケーキを作りました。几帳面にフルーツを飾り付ける人、豪快にクリームを塗る人、さりげなく他のメンバーのフォローをする人、各人それぞれに個性を発揮して作業を進めていました。

（おのころの家　山本）

農業班「雨の日の活動」

農業といえば、雨が降るとお休みのイメージがありますが、農業班は雨の日も休まず活動しております。今回は雨の日の活動を少し紹介致します。

・６月からのタマネギ（ターザン）収穫の準備として出荷先へコンテナを借りに行き、運搬・積み下ろしを行っています。みんなくたくたになりながらも収量約50トンを目標に頑張っています。只今、淡路玉ねぎの注文を承っておりますので、よろしくお願いいたします。甘くておいしいですよ！

・椿の種割り作業はご依頼を受けたお仕事で一粒一粒、金槌と手で割って集めています。

・小雨の時は中川原地域でご依頼を受けたお宅やお借りしている農地の管理として草刈りや植木の剪定を行っております。

・洲本市ご依頼のマスクケース製作の部品作り（くるみボタン）や生地の着物のほどき作業を行っています。

このように雨が降っても、一生懸命汗を流しながら作業を頑張っております。

（おのころの家農業班　矢田）

デイサービスの活動

毎月１回月曜日の手芸講座「八狸の壁掛け」を作りました。

「それ!!」足を使って輪投げで体を動かしました。

（デイサービス　竹内）

第２弾　おのころ農園

特産淡路たまねぎ(ターザン)生産直売！

玉ねぎ小屋に自然の風を利用してゆっくりと乾燥された玉ねぎ。淡路島は日照時間が長く、潮風によって甘く育てられました。美味しい「ターザン」をお届けします。

○申込期間：令和３年6月～7月

連絡方法：FAX か TEL お待ちしております。

TEL 0799-28-0995　FAX 0799-28-0992

希望	重さ	価格	送料	箱数
	5kg	800円	850円～	
	10kg	1,500円	1,100円～	

申込者：

お送り先	ご氏名：	
	ご住所：〒	
	ご連絡先：	

神戸長田ふくろうの杜
兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941
〒653-0836

自分らしく暮らす支援を目指して

6月1日からいよいよ神戸平野ふくろうの樹が開所しました。

4名の入居者が新しい生活を始めています。今後は、順次入居していただき、8月には満床となる予定です。6月1日に入居される方は、5月末から、生活に必要な布団やタンスなどを運び入れ、入居の日を迎えました。

▲初めての食事、入居を喜び合いました

お互いが成長できる場に

入居者に、今のお気持ちをお伺いしました。

百地俊恵さん、「これまで家ではできなかった洗濯や調理などを、自分でやりたい。」

林美枝さん、「両親も年を取ったので、安心させたい。これまで一緒に頑張ってきたなかまとの暮らしを楽しみたい。きれいな部屋で生活できるのがうれしい。」

荒木津紀子さん、「これまで、我慢してきたこともあった。自分らしく生活を送りたい」

新田章雄さん、「ここで生活を送ります。」

ほとんどの方が、家族と離れて暮らすのは初めてで、どんな暮らしになるのか職員は不安でしたが、入居者は前向きに新生活を考えておられます。それぞれの思いにこたえられるくらしづくりができるように職員一同頑張っていきたいです。

（神戸平野ふくろうの樹　支援員　長澤理佐子）

集まれなくても、支援は継続

生きがいデイサービス

灘デイサービスは４月２５日緊急事態宣言が発令され、5月31日まで会場の兵庫県立聴覚障害者情報センターが使用できなくなったため、５月28日まで休止となりました。

デイサービスの開催はできなくても、利用者さんには休止のお知らせと安否確認のメールを送り、様子を伺いました。ラインのテレビ電話も活用して、できるだけ顔を見て話ができる工夫もしました。

また、自粛による身体機能の低下を防ぐため、介護予防啓発のチラシ、脳トレプリント（計算問題、間違い探しなど）塗り絵、家でできる体操のプリントなどを郵送しました。

会場の都合で開催できない場合に、これらの取り組みをすることで休止の場合も昨年度の平均の利用者数に応じた委託料が補填されます。

緊急事態宣言は延長されましたが、情報センターの使用が可能となり、６月から灘デイサービスも再開します！！

▲力を合わせて夕食づくり。今夜はカレー

神戸施設建設募金

目標　1億円!!

2021.5.31 現在　募金合計額　97,687,097 円

（プレート募金 357 人）

目標１億円まで、あと　2,312,903 円